

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（身体・知的等障害分野））
発達障害児者等の地域特性に応じた支援ニーズとサービス利用の実態の
把握と支援内容に関する研究

分担研究報告書

福島県浜通りにおける発達障害の気づきと支援に関する研究
(いわき市・南相馬市)

研究分担者 内山登紀夫（大正大学 心理社会学部 教授）
研究協力者 川島 慶子（福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室 研究員）
中村志寿佳（福島大学 子どものメンタルヘルス支援事業推進室 特任助教）
福留さとみ（大正大学 研究員）

研究要旨：

本研究班の目的に基づき、福島県沿岸部のいわき市（人口約34万人）南相馬市（人口約6万人）を“小規模市”の対象として、発達に遅れや偏りのある子どもの実態と支援について各市の小・中学校を対象にアンケート調査を実施した。

今回の調査結果から、南相馬市では、時間の経過と共に落ち着きのない子どもの割合の緩やかな増加傾向と高学年における医療機関受診率の高まりがみられた。震災の影響を受けていない同規模市の自治体との比較検討を行う必要がある。いわき市では、H27年度より震災後の避難者受け入れなどにより大幅な人口増加がみられており、医療・福祉サービスの不足が懸念されると共に、学校現場における子どもの把握や支援における課題も明らかにしていく必要がある。いずれの市にも共通していたのは、教育における配慮や支援においては、通常学級における学級担任による配慮のみで対応する子どもの割合が高まっていることが確認された。支援員の配置など、担任以外に授業をサポートする人材の確保が求められる。成長・発達する子どもの特徴を経時的に、震災後の地域特性を踏まえて、実態を把握することが福島県の子どもの理解や支援の検討において重要であると考ええる。

A. 研究概要と目的

本研究班の目的である“地域特性”ごとの発達障害の支援ニーズと提供されるサービスの実態把握の一資料とするため、福島県では、沿岸部のいわき市と南相馬市を対象として学校における発達に遅れや偏りのある子どもの気づきと支援の現状について調査を行う。

H25年度より、1）H18・H14年度生まれの子ども（H25年度の小学1年・小学6年）の追跡調査、2）毎年的小学1・6年生の定点調査を行ってきた。今回は、H28、29年度の調査結果について報告を行う。

福島県沿岸部はH23年3月11日から現在に至るまで、東日本大震災（以下、震災）後の

第一原子力発電所事故の影響により、避難や帰還などにより人口変動が大きい地域である。子どもの実態と支援ニーズを経時的に把握することは、震災に起因する地域特性も踏まえた支援ニーズの変化を確認することにつながり、今後の支援体制整備の基礎資料となることが期待される。

B. 研究方法

・H28年度実施

H28年12月～H29年1月にアンケートを配布回収した。

(いわき市)

対象の学校：市内の小学校67校、中学校39校、特別支援学校3校である。

対象の子ども：いわき市に居住している小学1・4・6年生、中学3年生である。

(南相馬市)

対象の学校：南相馬市内の小学校15校、中学校6校、近隣市の特別支援学校1校である。

対象の子ども：南相馬市に居住している小学1・4・6年生、中学3年生である。

・H29年度実施

実施期間：H29年12月～H30年1月にアンケートを配布回収した。

(南相馬市)

対象の学校：南相馬市内の小学校15校、中学校6校、近隣市の特別支援学校1校である。

対象の子ども：南相馬市に居住している小学1・5・6年生、中学3年生である。

調査項目：H28、29年度とも同様の内容である。①『発達に何らかの遅れや偏りのある児童』の総数とその内訳（「自閉スペクトラム症（以下、ASD）」、「注意欠如多動性障害（以下、ADHD）」、「構音障害・発達性言語障害（以下、言語）」、「学習障害（以下、LD）」、「精

神遅滞」、「その他精神科的な問題（吃音、緘黙、チック等）」、「境界知能」）について、②『特別な教育的配慮（「特別支援学級」や「通級指導教室の利用」「支援員による支援」等）』、③『震災後のストレスケアに関する項目（「専門的な心のケアが必要な児童」「スクールカウンセラーの利用」「医療機関受診」）』等により構成されている。

さらに、①の診断名に関する質問については、「医療機関の受診の有無」、重複して「反抗挑戦性障害」「素行障害」の特徴があるか、「不登校」についても確認する。

(倫理面への配慮)

本研究は、福島大学の倫理指針に基づき、承認を得て行った。

C. 研究結果

アンケートの配布回収に関する各市の結果は次の通りである。

(いわき市)

アンケートについては、H28年度は小学校67校中62校（回収率92.5%）、中学校39校中36校（回収率92.3%）、特別支援学校3校中3校（回収率100%）から回答を得た。アンケートにおける各年度の児童・生徒数は、次の通りである。

H28年度

小学1年生 2330名（男1151名、女1179名）

小学4年生 2595名（男1325名、女1270名）

小学6年生 2703名（男1360名、女1343名）

中学3年生 2980名（男1478名、女1502名）

(南相馬市)

H28年度は南相馬市立の小学校全15校、中学校全6校、近隣の支援学校全1校から回答を得た（回収率100%）。H29年度は、小学校全15校、支援学校1校から回答を得た（回収

率100%)。アンケート結果から得られた児童・生徒数は、次の通りである。

H28年度

小学1年生 336名 (男161名、女175名)
小学4年生 339名 (男176名、女163名)
小学6年生 394名 (男190名、女204名)
中学3年生 435名 (男230名、女205名)

H29年度

小学1年生 317名 (男156名、女161名)
小学5年生 338名 (男179名、女159名)
小学6年生 396名 (男212名、女184名)

1) 追跡調査

(1) H25年度小学1年生の追跡調査 (H18年4月2日～H19年4月1日生まれ)

H25年度から開始した調査である(内山ら、2016)が、今回はH28、29年度の結果を中心に報告する。

a. 発達に何らかの遅れや偏りがある子ども (いわき市)【表1-2参照】

・H28年小学4年生 (n=2595) の「発達に遅れや偏りがある子どもの総数」は194名(7.5%)であり、その内訳をみると「医療機関の受診を把握している子ども」は76名(2.9%)、「医療機関の受診の把握はしていないが発達の遅れや偏りを感じる子ども(疑い含む)」は118名(4.5%)であった。

(南相馬市)【表2-2参照】

・H28年小学校4年生 (n=339) の「発達に遅れや偏りがある子どもの総数」は54名(15.9%)であり、H29年小学5年生 (n=338) は57名(16.9%)であった。その内、「医療機関の受診を把握している子ども」は、H28年小学4年生16名(4.7%)、H29年小学5年生30名(8.9%)であり、増加がみられた。

b. 主たる問題の内訳

(いわき市)

・H28小学4年生

【表1-2、表1-6、表1-10、表1-14参照】
医療機関を受診したと把握している子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」38名(1.5%)、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」16名(0.6%)、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」1名(0.04%)、「学習面の問題；LDなど」4名(0.2%)、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」12名(0.5%)、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」4名(0.2%)、「知能が境界域」1名(0.04%)であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」24名(0.9%)、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」14名(0.5%)、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」9名(0.3%)、「学習面の問題；LDなど」15名(0.6%)、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」16名(0.6%)、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」3名(0.1%)、「知能が境界域」37名(1.4%)であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子どもの内、反抗的な特性がある(反抗挑戦性障害など)子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると「対人関係やこだわり；ASDなど」は22名(0.8%)、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」は11名(0.4%)、「学習面の問題；LDなど」、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」、「知能が境界域」は各1名(0.04%)であった。「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発

達性言語障害など」は0名(0.0%)であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子ども
の内、触法行為などの問題がある(素行障害
など)子どもは、医療機関の受診を問わず主
たる問題別にみると「対人関係やこだわり；
ASDなど」と「落ち着きがない、そそっか
しい；ADHDなど」、「その他の精神科的ケ
アを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」
が各2名(0.1%)、「学習面の問題；LDなど」
が1名(0.04%)、「言葉を理解することや話
すこと；構音障害、発達性言語障害など」と
「知能が境界域」は0名であった。

「不登校の子ども」は、主たる問題別にみ
ると「対人関係やこだわり；ASDなど」が
1名(0.04%)、「その他の精神科的ケアを要
する；吃音・場面緘黙・チックなど」が2名
(0.1%)、その他0名(0.0%)であった。

(南相馬市)

・H28小学4年生

【表2-2、表2-6、表2-10、表2-14参照】

医療機関を受診したと把握している子ども
の内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」
6名(1.8%)、「落ち着きがない、そそっかし
い；ADHDなど」5名(1.5%)、「言葉を理
解することや話すこと；構音障害、発達性言
語障害など」0名(0.0%)、「学習面の問題；
LDなど」1名(0.3%)、「発達全体の遅れ；
精神遅滞など」4名(1.2%)、「その他の精神
科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チック
など」0名(0.0%)、「知能が境界域」0名(0.0%)
であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の
遅れや偏りがあると感じる子どもの内訳は、
「対人関係やこだわり；ASDなど」7名(2.1%)、
「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDな
ど」13名(3.8%)、「言葉を理解することや話

すこと；構音障害、発達性言語障害など」3
名(0.9%)、「学習面の問題；LDなど」4名
(1.2%)、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」
6名(1.8%)、「その他の精神科的ケアを要
する；吃音・場面緘黙・チックなど」4名(1.2
%)、「知能が境界域」1名(0.3%)であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子ども
の内、反抗的な特性がある(反抗挑戦性障害
など)子どもは、医療機関の受診を問わず主
たる問題別にみると「落ち着きがない、そそっ
かしい；ADHDなど」は5名(1.5%)、「対
人関係やこだわり；ASDなど」では4名
(1.2%)、その他はすべて0名(0.0%)であっ
た。

発達の遅れや偏りがあると把握する子ども
の内、触法行為などの問題がある(素行障害
など)子どもは、医療機関の受診を問わず主
たる問題別にみるとすべて0名(0.0%)であっ
た。

「不登校の子ども」は、主たる問題別にみ
ると「発達全体の遅れ；精神遅滞など」が1
名(0.3%)、その他すべて0名(0.0%)であっ
た。

・H29小学5年生

【表3-2、表3-5、表3-8、表3-11参照】

医療機関を受診したと把握している子ども
の内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」
16名(4.7%)、「落ち着きがない、そそっかし
い；ADHDなど」7名(2.1%)、「言葉を理
解することや話すこと；構音障害、発達性言
語障害など」0名(0.0%)、「学習面の問題；
LDなど」0名(0.0%)、「発達全体の遅れ；
精神遅滞など」6名(1.8%)、「その他の精神
科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チック
など」1名(0.3%)、「知能が境界域」0名(0.0%)
であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の

遅れや偏りがあると感じる子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」6名（1.8%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」8名（2.4%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」0名（0.0%）、「学習面の問題；LDなど」7名（2.1%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」3名（0.9%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」1名（0.3%）、「知能が境界域」2名（0.6%）であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子どもの内、反抗的な特性がある（反抗挑戦性障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると「対人関係やこだわり；ASDなど」では2名（0.6%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」は5名（1.5%）、その他はすべて0名（0.0%）であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子どもの内、触法行為などの問題がある（素行障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみるとASD、ADHD、吃音・場面緘黙・チック等、LD、言語、境界知能すべてにおいて0名（0.0%）であった。

「不登校の子ども」は、主たる問題別にみると「発達全体の遅れ；精神遅滞など」が1名（0.3%）、その他0名（0.0%）であった。

c. 特別な教育的配慮

（いわき市）

・H28小学4年生（n=2570）【表1-17参照】

教育において何らかの支援や配慮が必要な子どもの総数は147名（5.7%）であった。

その内訳は、知的障害特別支援学級に在籍する児童は31名（1.2%）、情緒障害特別支援学級に在籍する生徒は14名（0.5%）、その他の特別支援学級は2名（0.1%）、情緒障害通

級指導教室は6名（0.2%）、難聴・言語障害通級指導教室は7名（0.3%）、その他の通級指導教室が6名（0.2%）、適応指導教室が1名（0.04%）、その他の支援が8名（0.3%）、学級担任による配慮のみが最も多く72名（2.8%）であった。

（南相馬市）

・H28小学4年生（n=335）【表2-17参照】

教育において何らかの支援や配慮が必要な子どもの総数は45名（13.4%）であった。

その内訳は、知的障害特別支援学級に在籍9名（2.7%）、自閉症・情緒障害特別支援学級3名（0.9%）であった。情緒障害通級指導教室2名（0.6%）、難聴・言語障害通級指導教室5名（1.5%）、学級担任のみによる配慮のみ25名（7.5%）、その他の支援（学習支援員・介助員等）1名（0.3%）であった。

・H29小学5年生（n=334）【表3-13参照】

教育において何らかの支援や配慮が必要な子どもの総数は44名（13.2%）であった。

その内訳は、知的障害特別支援学級に在籍9名（2.7%）、自閉症・情緒障害特別支援学級3名（0.9%）、情緒障害通級指導教室2名（0.6%）、難聴・言語障害通級指導教室4名（1.2%）、学級担任のみによる配慮のみ25名（7.5%）、その他の支援（学習支援員・介助員等）が1名（0.3%）であった。

d. 震災後のストレス

（いわき市）

・H28小学4年生【表1-18参照】

発達の遅れや偏りを問わず、全ての小学4年生について、震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じると回答があった子どもは7名（0.3%）であった。その内、スクー

ルカウンセラーの面接を受けた子どもは4名(0.2%)、医療機関を受診したと把握している子どもは4名(0.2%)であった。

(南相馬市)

・H28小学4年生【表2-18参照】

震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる子どもは6名(1.8%)であった。その内、スクールカウンセラーの面接を受けたことがある子どもは3名(0.9%)、医療機関を受診したと把握している子どもは1名(0.3%)となっている。また、震災後、すべての子どもがスクールカウンセラーの面接を受けたという学校もあったが、この数字には含まれない。

・H29小学5年生(n=338)【表3-14参照】

震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる子どもは9名(2.7%)であった。その内、スクールカウンセラーの面接を受けたことがある子どもは5名(1.5%)、医療機関を受診したと把握している子どもは0名(0%)であった。H28年度よりも増加がみられるが、医療機関を受診までには至らないことがわかる。

(2) H25年度小学6年生の追跡調査 (H13年4月2日～H14年4月1日生まれ)

H25年度から開始した調査であるが、本報告ではH28、29年度の結果を中心に報告する。

a. 発達に何らかの遅れや偏りのある子ども (いわき市)【表1-4参照】

H28中学3年生(n=2980)の「発達に何らかの遅れや偏りがある子どもの総数」は135名(4.5%)であり、その内「医療機関の受診を把握している子ども」は78名(2.6%)、「医療機関の受診の把握はしていないが発達の遅れや偏りを感じる子ども(疑い含む)」は57

名(1.9%)であった。

(南相馬市)【表2-4参照】

H28中学3年生(n=435)の「発達に何らかの遅れや偏りがある子どもの総数」は33名(7.6%)であった。その内、「医療機関の受診を把握している子ども」は23名(5.3%)、「医療機関の受診の把握はしていないが発達の遅れや偏りを感じる子ども(疑い含む)」は10名(2.3%)であった。

b. 主たる問題の内訳

(いわき市)

・H28中学3年生

【表1-4、表1-8、表1-12、表1-16参照】

医療機関を受診したと把握している子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」39名(1.3%)、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」16名(0.5%)、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」1名(0.03%)、「学習面の問題；LDなど」1名(0.03%)、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」17名(0.6%)、「その他の精神的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」4名(0.1%)、「知能が境界域」0名(0.0%)であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りに問題があると感じる子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」10名(0.3%)、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」8名(0.3%)、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」1名(0.03%)、「学習面の問題；LDなど」9名(0.3%)、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」17名(0.6%)、「その他の精神的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」5名(0.2%)、「知能が境界域」7名(0.2%)であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子ども
の内、反抗的な特性がある（反抗挑戦性障害
など）子どもは、医療機関の受診を問わず主
たる問題別にみると「対人関係やこだわり；
ASDなど」は6名（0.2%）、「落ち着きがない、
そそっかしい；ADHDなど」は2名（0.1%）、
「学習面の問題；LDなど」は1名（0.04%）、
「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場
面緘黙・チックなど」は8名（0.3%）、「言
葉を理解することや話すこと；構音障害、発
達性言語障害など」、「発達全体の遅れ；精
神遅滞など」、「知能が境界域」は各0名（0.0%）
であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子ども
の内、触法行為などの問題がある（素行障害
など）子どもは、医療機関の受診を問わず主
たる問題別にみると「対人関係やこだわり；
ASDなど」4名（0.1%）、「落ち着きがない、
そそっかしい；ADHDなど」と「学習面の
問題；LDなど」が各1名（0.03%）、「言葉
を理解することや話すこと；構音障害、発
達性言語障害など」、「その他の精神科的ケア
を要する；吃音・場面緘黙・チックなど」、「
知能が境界域」は0名（0.0%）であった。

「不登校の子ども」は、主たる問題別にみ
ると「対人関係やこだわり；ASDなど」が
7名（0.2%）、精神遅滞の不登校に関しては、
今回は未採取である。

（南相馬市）

・H28中学3年生

【表2-4、表2-8、表2-12、表2-16参照】

医療機関を受診を把握している子どもの内
訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」11
名（2.5%）、「落ち着きがない、そそっかしい；
ADHDなど」4名（0.9%）、「言葉を理解す
ることや話すこと；構音障害、発達性言語障

害など」0名（0.0%）、「学習面の問題；LD
など」0名（0.0%）、「発達全体の遅れ；精
神遅滞など」5名（1.1%）、「その他の精神科
的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックな
ど」1名（0.2%）、「知能が境界域」2名（0.5%）
であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の
遅れや偏りがあると感じる子どもの内訳は、
「対人関係やこだわり；ASDなど」3名
（0.7%）、「落ち着きがない、そそっかしい；
ADHDなど」1名（0.2%）、「言葉を理解す
ることや話すこと；構音障害、発達性言語障
害など」0名（0.0%）、「学習面の問題；LD
など」2名（0.5%）、「発達全体の遅れ；精
神遅滞など」1名（0.2%）、「その他の精神
科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チック
など」1名（0.2%）、「知能が境界域」2名
（0.5%）であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子ども
の内、反抗的な特性がある（反抗挑戦性障害
など）子どもは、医療機関の受診を問わず主
たる問題別にみると「対人関係やこだわり；
ASDなど」は3名（0.7%）、「落ち着きがない、
そそっかしい；ADHDなど」、「言葉を理解
することや話すこと；構音障害、発達性言語
障害など」、「学習面の問題；LDなど」、「
発達全体の遅れ；精神遅滞など」、「その
他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘
黙・チックなど」、「知能が境界域」はい
ずれも0名（0.0%）であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子ども
の内、触法行為などの問題がある（素行障害
など）子どもは、医療機関の受診を問わず主
たる問題別にみると全て0名（0.0%）であ
った。

「不登校の子ども」は、主たる問題別にみ
ると「対人関係やこだわり；ASDなど」が

1名（0.2%）であった。

c. 特別な教育的配慮

（いわき市）【表1-17参照】

・H28年中学3年生（n=2948）

教育において何らかの支援や配慮が必要な子どもの総数は96名（3.3%）であった。

その内訳は、特別支援学級（知的障害）に在籍32名（1.1%）、特別支援学級（情緒障害）13名（0.4%）、情緒障害通級指導教室0名（0.0%）、難聴・言語障害通級指導教室1名（0.03%）、その他の支援（支援員の配置等）が3名（0.1%）、学級担任による配慮のみが最も多く47名（1.6%）であった。

（南相馬市）

・H28年中学3年生（n=432）【表2-17参照】

教育において何らかの支援や配慮が必要な子どもは26名（6.0%）であった。

その内訳は、知的障害特別支援学級に在籍7名（1.6%）、自閉症・情緒障害特別支援学級0名、情緒障害通級指導教室0名（0.0%）、学級担任のみによる配慮のみ17名（3.9%）、その他の支援（学習支援員・介助員等）が2名（0.5%）であった。

d. 震災後のストレス

（いわき市）【表1-18参照】

中学3年生の内、震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる子どもは0名（0.0%）であった。

（南相馬市）【表2-18参照】

中学3年生の内、震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる子どもは1名（0.2%）であった。その内、スクールカウンセラーの面接を受けたことがある子どもは0

名（0.0%）、医療機関につながったと把握している子どもも0名（0.0%）となっている。

2）各年度の小学1・6年生の定点調査

（1）小学1年生の結果

a. 発達に何らかの遅れや偏りのある子ども

（いわき市）【表1-1参照】

H28小学1年生（n=2330）の「発達に遅れや偏りがある子どもの総数」は186名（8.0%）であり、その内「医療機関の受診を把握している子ども」は60名（2.6%）、「医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子ども（疑い含む）」は126名（5.4%）であった。

（南相馬市）【表2-1参照】

H28小学1年生（n=336）の「発達に遅れや偏りがある子どもの総数」は71名（21.1%）であった。その内、「医療機関の受診を把握している子ども」は17名（5.1%）、「医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子ども（疑い含む）」は54名（16.1%）であった。H29小学1年生（n=317）の「発達に遅れや偏りがある子ども」は60名（18.9%）であった。その内、「医療機関の受診を把握している子ども」は12名（3.8%）、「医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子ども（疑い含む）」は48名（15.1%）であった。

b. 主たる問題の内訳

（いわき市）

・H28小学1年生

【表1-1、表1-5、表1-9、表1-13参照】

医療機関を受診したと把握している子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」33名（1.4%）、「落ち着きがない、そそっかし

い；ADHDなど」11名（0.5%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」8名（0.3%）、「学習面の問題；LDなど」1名（0.04%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」6名（0.3%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」1名（0.04%）、「知能が境界域」0名（0.0%）であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」35名（1.5%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」16名（0.7%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」26名（1.1%）、「学習面の問題；LDなど」5名（0.2%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」14名（0.6%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」8名（0.3%）、「知能が境界域」22名（0.9%）であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子どもの内、反抗的な特性がある（反抗挑戦性障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると「対人関係やこだわり；ASDなど」は16名（0.7%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」は5名（0.2%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」、「学習面の問題；LDなど」、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」は各1名（0.04%）、「知能が境界域」は2名（0.1%）であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子どもの内、触法行為などの問題がある（素行障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」、「その他の精神科的

ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」、「知能が境界域」において、それぞれ1名（0.04%）であった。

「不登校の子ども」は、主たる問題別にみると「対人関係やこだわり；ASDなど」が1名（0.04%）、その他0名（0.0%）であった。

（南相馬市）

・H28小学1年生

【表2-1、表2-5、表2-9、表2-13参照】

医療機関を受診したと把握している子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」11名（3.2%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」1名（0.3%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」0名（0.0%）、「学習面の問題；LDなど」1名（0.3%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」4名（1.2%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」0名（0.0%）、「知能が境界域」0名（0.0%）であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」3名（0.9%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」16名（4.7%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」15名（4.4%）、「学習面の問題；LDなど」6名（1.8%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」9名（2.6%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」2名（0.6%）、「知能が境界域」3名（0.9%）であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子どもの内、反抗的な特性がある（反抗挑戦性障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると「落ち着きがない、そそっ

かしい；ADHDなど」は5名（1.5%）、「対人関係やこだわり；ASDなど」では2名（0.6%）、その他はすべて0名（0.0%）であった。

発達遅れや偏りがあると把握する子どもの内、触法行為などの問題がある（素行障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると「対人関係やこだわり；ASDなど」1名（0.3%）、その他すべて0名（0.0%）であった。

「不登校の子ども」は、主たる問題別にみると「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」が3名（0.9%）、その他すべて0名（0.0%）であった。

・H29小学1年生

【表3-1、表3-4、表3-7、表3-10参照】

医療機関を受診したと把握している子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」11名（3.5%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」1名（0.3%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」0名（0.0%）、「学習面の問題；LDなど」0名（0.0%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」0名（0.0%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」0名（0.0%）、「知能が境界域」0名（0.0%）であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」5名（1.6%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」16名（5.0%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」15名（4.7%）、「学習面の問題；LDなど」3名（0.9%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」4名（1.3%）、「その他の精神科的ケアを要す

る；吃音・場面緘黙・チックなど」1名（0.3%）、「知能が境界域」4名（1.3%）であった。

発達遅れや偏りがあると把握する子どもの内、反抗的な特性がある（反抗挑戦性障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると「対人関係やこだわり；ASDなど」では7名（2.2%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」は3名（0.9%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」1名（0.3%）、その他はすべて0名（0.0%）であった。

発達遅れや偏りがあると把握する子どもの内、触法行為などの問題がある（素行障害など）子どもは0名（0.0%）であった。

「不登校の子ども」も医療機関の受診を問わず0名（0.0%）であった。

c. 特別な教育的配慮

（いわき市）

・H28小学1年生（n=2304）【表1-17参照】

教育において何らかの支援や配慮が必要な子どもの総数は147名（6.4%）であった。

その内訳は、知的障害特別支援学級に在籍27名（1.2%）、情緒障害特別支援学級14名（0.6%）、情緒障害通級指導教室1名（0.04%）、難聴・言語障害通級指導教室22名（1.0%）、その他の通級指導教室2名（0.1%）、その他の支援が23名（1.0%）、学級担任による配慮のみが56名（2.4%）であった。

（南相馬市）

・H28小学1年生（n=332）【表2-17参照】

教育において何らかの支援や配慮が必要な子どもの総数は68名（20.5%）であった。

その内訳は、知的障害特別支援学級に在籍11名（3.3%）、自閉症・情緒障害特別支援学級は2名（0.6%）、情緒障害通級指導教室0

名（0％）、難聴・言語障害通級指導教室20名（5.9％）、学級担任のみによる配慮のみ24名（7.1％）、その他の支援（学習支援員・介助員等）10名（3.0％）であった。

・H29小学1年生（n=317）【表3-13参照】

教育において何らかの支援や配慮が必要な子どもの総数は60名（18.9％）であった。

その内訳は、知的障害特別支援学級に在籍9名（2.8％）、自閉症・情緒障害特別支援学級は0名（0.0％）、情緒障害通級指導教室3名（0.9％）、難聴・言語障害通級指導教室14名（4.0％）、その他の通級指導教室1名（0.3％）、適応指導教室1名（0.3％）、学級担任のみによる配慮のみ29名（9.1％）、その他の支援（学習支援員・介助員等）3名（0.9％）であった。

d. 震災後のストレス

（いわき市）【表1-18参照】

H28小学1年生の内、震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる子どもは0名であった。

（南相馬市）【表2-18、表3-14参照】

H28小学1年生の内、震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる子どもは1名（0.3％）であった。その内スクールカウンセラーの面接を受けた子どもは1名（0.3％）であった。また、医療機関の受診は0名（0.0％）である

H29小学1年生（n=317）の内、震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる子どもは11名（3.5％）、そのスクールカウンセラーの面接を受けた子どもは6名（1.9％）、医療機関を受診している子どもは1名（0.3％）であった。また、回答において、震災当時はまだ乳幼児であったことから、震災後のストレスと判断することは難しいとの

意見があった。

（2）小学6年生の結果

a. 発達に何らかの遅れや偏りのある子ども（いわき市）【表1-3参照】

H28年度小学6年生（n=2703）の「発達に遅れや偏りがある子どもの総数」は136名（5.0％）であり、その内「医療機関の受診を把握している子ども」は53名（2.0％）、「医療機関の受診は把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子ども（疑い含む）」は83名（3.1％）であった。

（南相馬市）【表2-3、表3-3参照】

H28小学6年生（n=394）の「発達に遅れや偏りがある子どもの総数」は40名（10.2％）であった。その内「医療機関の受診を把握している子ども」は17名（4.3％）、「医療機関の受診は把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子ども（疑い）」は23名（5.8％）であった。

H29小学6年生（n=396）の「発達に遅れや偏りがある子どもの総数」は69名（17.4％）であった。その内、「医療機関の受診を把握している子ども」は34名（8.6％）、「医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子ども（疑い含む）」は35名（8.8％）であった。

b. 主たる問題の内訳

（いわき市）

・H28小学6年生

【表1-3、表1-7、表1-11、表1-15参照】

医療機関を受診したと把握している子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」26名（1.0％）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」16名（0.6％）、「言葉を理

解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」1名（0.04%）、「学習面の問題；LDなど」1名（0.04%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」5名（0.2%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」3名（0.1%）、「知能が境界域」1名（0.04%）であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」24名（0.9%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」14名（0.5%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」2名（0.1%）、「学習面の問題；LDなど」9名（0.3%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」17名（0.6%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」5名（0.2%）、「知能が境界域」12名（0.4%）であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子どもの内、反抗的な特性がある（反抗挑戦性障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると、「対人関係やこだわり；ASDなど」では17名（0.6%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」は10名（0.4%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」0名（0.0%）、「学習面の問題；LDなど」0名（0.0%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」0名（0.0%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」1名（0.04%）、「境界知能」2名（0.1%）であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子どもの内、触法行為などの問題がある（素行障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると「対人関係やこだわり；ASDなど」と「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」は各2名（0.1%）、「発

達全体の遅れ；精神遅滞など」が1名（0.04%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」1名（0.04%）、「学習面の問題；LDなど」1名（0.04%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」1名（0.04%）、「境界知能」において0名であった。不登校では、「対人関係やこだわり；ASDなど」が2名（0.1%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」が3名（0.1%）であった。

（南相馬市）

・H28小学6年生

【表2-3、表2-7、表2-11、表2-15参照】

医療機関を受診したと把握している子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」14名（3.6%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」0名（0.0%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」1名（0.3%）、「学習面の問題；LDなど」0名（0.0%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」2名（0.5%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」0名（0.0%）、「知能が境界域」0名（0.0%）であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」2名（0.5%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」5名（1.3%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」3名（0.8%）、「学習面の問題；LDなど」6名（1.5%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」3名（0.8%）、「その他の精神科的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」1名（0.3%）、「知能が境界域」3名（0.8%）であった。

発達の遅れや偏りがあると把握する子ども

の内、反抗的な特性がある（反抗挑戦性障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると「対人関係やこだわり；ASDなど」では1名（0.3%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」は2名（0.5%）、その他はすべて0名（0.0%）であった。

発達遅れや偏りがあると把握する子どもの内、触法行為などの問題がある（素行障害など）子どもは0名（0.0%）であった。

「不登校の子ども」は、医療機関の有無を問わず主たる問題別にみると「対人関係やこだわり；ASDなど」1名（0.3%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」1名（0.3%）、その他は0名（0.0%）であった。

・H29小学6年生

【表3-3、表3-6、表1-9、表1-12参照】

医療機関を受診したと把握している子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」15名（3.8%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」7名（1.8%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」0名（0.0%）、「学習面の問題；LDなど」1名（0.3%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」7名（1.8%）、「その他の精神的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」3名（0.8%）、「知能が境界域」1名（0.3%）であった。

医療機関の受診を把握していないが発達の遅れや偏りがあると感じる子どもの内訳は、「対人関係やこだわり；ASDなど」3名（0.8%）、「落ち着きがない、そそっかしい；ADHDなど」7名（1.8%）、「言葉を理解することや話すこと；構音障害、発達性言語障害など」1名（0.3%）、「学習面の問題；LDなど」3名（0.8%）、「発達全体の遅れ；精神遅滞など」

6名（1.5%）、「その他の精神的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」5名（1.3%）、「知能が境界域」10名（2.5%）であった。

発達遅れや偏りがあると把握する子どもの内、反抗的な特性がある（反抗挑戦性障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると「対人関係やこだわり；ASDなど」1名（0.3%）、「学習面の問題；LDなど」1名（0.3%）、その他はすべて0名（0.0%）であった。

発達遅れや偏りがあると把握する子どもの内、触法行為などの問題がある（素行障害など）子どもは、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると、「その他の精神的ケアを要する；吃音・場面緘黙・チックなど」1名（0.3%）、その他0名（0.0%）であった。

「不登校の子ども」は、医療機関の受診を問わず主たる問題別にみると、「対人関係やこだわり；ASDなど」1名（0.3%）、「知能が境界域」1名（0.3%）、その他は0名（0.0%）であった。

c. 特別な教育的配慮

（いわき市）

・H28小学6年生（n=2683）【表1-17参照】

教育において何らかの支援や配慮を必要とする子どもは114名（4.2%）であった。

その内訳は、知的障害特別支援学級に在籍30名（1.1%）、自閉症・情緒障害学級は12名（0.4%）、情緒障害通級指導教室7名（0.3%）、難聴・言語障害通級指導教室1名（0.04%）、適応指導教室は1名（0.04%）、その他の支援が4名（0.1%）、学級担任による配慮のみが55名（2.0%）の結果であった。

（南相馬市）

・H28小学6年生（n=392）【表2-17参照】

教育において何らかの支援や配慮が必要な子どもは38名(9.7%)であった。その内訳は、知的障害特別支援学級に在籍4名(1.0%)、自閉症・情緒障害特別支援学級4名(1.0%)、情緒障害通級指導教室1名(0.3%)、難聴・言語障害通級指導教室7名(1.8%)、学級担任のみによる配慮のみの子どもは21名(5.4%)、その他の支援(学習支援員・介助員等)が1名(0.3%)であった。

・H29小学6年生(n=393)【表3-13参照】

教育において何らかの支援や配慮が必要な子どもは49名(12.5%)であった。その内訳は、知的障害特別支援学級に在籍10名(2.5%)、自閉症・情緒障害特別支援学級5名(1.3%)、情緒障害通級指導教室1名(0.3%)、難聴・言語障害通級指導教室4名(1.0%)、適応指導教室2名(0.5%)、学級担任のみによる配慮のみの子どもは26名(6.6%)、その他の支援(学習支援員・介助員等)が1名(0.3%)であった。

d. 震災後のストレス

(いわき市)【表1-18参照】

H28小学6年生の内、震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる子どもは7名(0.3%)であった。その内、スクールカウンセラーの面接を受けたのは2名(0.1%)、医療機関を受診したと把握しているのは2名(0.1%)であった。

(南相馬市)【表2-18、表3-14参照】

H28小学6年生の内、震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる子どもは8名(2.0%)であり、全員がスクールカウンセラーの面接を受けた。その内、医療機関を受診したと把握する子どもは0名(0.0%)であった。

H29小学6年生の内、震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる子どもは2名(0.5%)であり、スクールカウンセラーの面接を受けたのも2名(0.5%)、医療機関を受診を把握しているのは0名(0.0%)であった。

D. 考察

1) 追跡調査

いわき市は、H28年度のための調査となったが、医療機関の受診の把握率において調査を行ったすべての学年(小学1・6年、中学3年)で2.0~2.9%を示しており、大きな変動が見られなかった。それに対し、南相馬市では医療機関の受診を把握する子どもの割合はH28年度の小学4年生が4.7%であるのに対しH29年度の小学5年生では8.9%と1年間で大幅な増加がみられた。

いわき市は、H27年以降、東日本大震災(以下、震災)の影響から避難者の帰還や生活再建に伴う大幅な人口増加がみられており『いわき市の人口(平成29年度)』、人口規模に対する医療機関の不足が推測される。一方で、南相馬市では、震災以降、県外からの医療支援を経て市独自で事業を展開するなど精神科医の確保に努めている背景があり、人口規模に対して専門医や専門職の充足度が高いとも考えられる。南相馬市における急激な受診率の高まりについては、人口規模や地域特性、支援システムの違いによる影響だけではなく、震災後の社会資源の変化も含めて捉える必要がある。

教育における配慮や支援が必要な子どもの割合と支援内容について、H28年度(小学4年)とH29年度(小学5年)の南相馬市の追跡調査結果を比較すると、いずれも約13%と支援を必要とする子どもの割合に変化は見ら

れなかった。この特徴が低学年にも共通する場合には、今後の支援ニーズの高まりが推測され、他市や他学年における傾向を確認する必要がある。

2) 定点調査

(1) 小学1年生

いわき市では、H28年度のみ結果であるが、発達の遅れや偏りのある子どもは他の学年よりも最も高く8.0%の結果であった。

南相馬市における発達の遅れや偏りのある子どもの割合は、H29年度では前年度と比較してやや減少がみられた。しかしながら、他県と同規模市と比較するとやや高い割合を示している。同市の教育における配慮や支援の必要な子どもの割合も同様に減少したが、支援内容の内訳をみると「学級担任による配慮のみ」の割合は高まっており、通常のクラス名において、配慮が必要な子どもが増加していることが推測される。

(2) 小学6年生

いわき市では、H28年度の結果で発達の遅れや偏りのある子どもは5.0%の結果であった。

南相馬市では、H28年度は発達の遅れや偏りのある子どもの総数の割合は10.2%、H29年度では17.4%と大きな差がみられ、医療機関を受診した子どもの割合は2倍になった。医療機関の受診の有無を問わず主たる問題別（内訳）をみると、「落ち着きがない」、「発達全体の遅れ」、「緘黙やチックなど」、「知能が境界域」において割合が高まっていた。支援内容では、今後も継続的に調査を行うと共に、より詳細な内容を確認する必要がある。

E. まとめ

今回の結果から、福島県沿岸部の中核市（いわき市）では、H28年度のみ結果報告となるが、小規模市と比較すると発達の遅れや偏りのある子どもの割合、医療機関の受診率共に低い結果であった。H27年度より震災後の避難者受け入れなどにより大幅な人口増加がみられており、医療・福祉サービスの不足が懸念されると共に、学校現場における子どもの把握や支援における課題も明らかにしていく必要がある。一方で、福島県沿岸部の小規模市（南相馬市）ではH28年度と比較してH29年度では小学校5年生と6年生において医療機関の受診率に大幅な増加がみられた。教育における配慮や支援においては、通常学級における学級担任による配慮のみで対応する子どもの割合が高まっていることが確認された。支援員の配置など、担任以外に授業をサポートする人材の確保が求められる。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

引用・参考文献

内山登紀夫, 川島慶子, 鈴木さとみ (2015). 震災と子どものメンタルヘルス 福島の乳幼児のメンタルヘルス. 発達障害医学の進歩, 27, 1-8.

内山登紀夫, 川島慶子, 鈴木さとみ (2016). 福島県浜通りにおける発達障害の気づきと支援に関する研究 (いわき市、南相馬市). 厚

生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（身体・知的等障害分野））「発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実態と評価」（研究代表者 本田秀夫）平成25-27年度総合研究報告書.

筒井雄二（2015）. 福島における原子力災害が引き起こした心理学的問題. 発達障害医学の進歩, 27, 37-44.

八木淳子（2016）. 東日本大震災後の子どものケアにおけるTF-CBTの実践. 児童青年精神医学とその近接領域, 57, No.4, 64-72.

本田秀夫（2016）. 発達障害児とその家族に

対する地域特性に応じた継続的な支援の実態と評価. 厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（身体・知的等障害分野））「発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実態と評価」（研究代表者 本田秀夫）平成25-27年度総合研究報告書.

いわき市の人口平成29年版(2017). いわき市. 福島県勢要覧平成28年版（2016）. 福島県統計協会.

南相馬市統計集 まちDス2016（2017）. 南相馬市役所.

【H28年度いわき市】

表 1 - 1 H28小学1年生 n=2330 (男=1151,女=1179)

主たる問題	発達の違いや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			計		
	人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%	
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	68	2.9%		55	4.8%		13	1.1%		33	1.4%		25	2.2%		35	1.5%	
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	27	1.2%		22	1.9%		5	0.4%		11	0.5%		8	0.7%		16	0.7%	
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	34	1.5%		24	2.1%		10	0.8%		8	0.3%		6	0.5%		26	1.1%	
学力の問題(LD等)	6	0.3%		4	0.3%		2	0.2%		1	0.04%		1	0.1%		5	0.2%	
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	20	0.9%		10	0.9%		10	0.8%		6	0.3%		3	0.3%		14	0.6%	
その他何らかの精神的ケアを要する(チック、緘黙等)	9	0.4%		6	0.5%		3	0.3%		1	0.04%		1	0.1%		8	0.3%	
境界域知能	22	0.9%		9	0.8%		13	1.1%		0	0.0%		0	0.0%		22	0.9%	
計	186	8.0%		130	11.3%		56	4.7%		60	2.6%		44	3.8%		126	5.4%	

表 1 - 3 H28小学6年生 n=2703 (男=1360,女=1343)

主たる問題	発達の違いや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			計		
	人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%	
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	50	1.8%		42	3.1%		8	0.6%		26	1.0%		20	1.5%		24	0.9%	
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	30	1.1%		27	2.0%		3	0.2%		16	0.6%		15	1.1%		14	0.5%	
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	3	0.1%		3	0.2%		0	0.0%		1	0.04%		1	0.1%		2	0.1%	
学力の問題(LD等)	10	0.4%		9	0.7%		1	0.1%		1	0.04%		1	0.1%		9	0.3%	
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	22	0.8%		17	1.3%		5	0.4%		5	0.2%		4	0.3%		17	0.6%	
その他何らかの精神的ケアを要する(チック、緘黙等)	8	0.3%		4	0.3%		4	0.3%		3	0.1%		1	0.1%		5	0.2%	
境界域知能	13	0.5%		7	0.5%		6	0.4%		1	0.04%		1	0.1%		12	0.4%	
計	136	5.0%		109	8.0%		27	2.0%		53	2.0%		43	3.2%		83	3.1%	

表 1－2

H28小学4年生 n=2595 (男=1325,女=1270)

主たる問題	発達の違いや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	62	2.4%	52	3.9%	10	0.8%	38	1.5%	29	2.2%	9	0.7%	24	0.9%	23	1.7%	1	0.1%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	30	1.2%	28	2.1%	2	0.2%	16	0.6%	14	1.1%	2	0.2%	14	0.5%	14	1.1%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	10	0.4%	7	0.5%	3	0.2%	1	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	9	0.3%	6	0.5%	3	0.2%
学力の問題(LD等)	19	0.7%	14	1.1%	5	0.4%	4	0.2%	2	0.2%	2	0.2%	15	0.6%	12	0.9%	3	0.2%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	28	1.1%	18	1.4%	10	0.8%	12	0.5%	6	0.5%	6	0.5%	16	0.6%	12	0.9%	4	0.3%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	7	0.3%	2	0.2%	5	0.4%	4	0.2%	1	0.1%	3	0.2%	3	0.1%	1	0.1%	2	0.2%
境界域知能	38	1.5%	21	1.6%	17	1.3%	1	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	37	1.4%	20	1.5%	17	1.3%
計	194	7.5%	142	10.7%	52	4.1%	76	2.9%	54	4.1%	22	1.7%	118	4.5%	88	6.6%	30	2.4%

表 1－4

H28中学3年生 n=2980 (男=1478,女=1502)

主たる問題	発達の違いや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	49	1.6%	37	2.5%	12	0.8%	39	1.3%	31	2.1%	8	0.5%	10	0.3%	6	0.4%	4	0.3%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	24	0.8%	21	1.4%	3	0.2%	16	0.5%	13	0.9%	3	0.2%	8	0.3%	8	0.5%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	2	0.1%	0	0.0%	2	0.1%	1	0.03%	0	0.0%	1	0.1%	1	0.03%	0	0.0%	1	0.1%
学力の問題(LD等)	10	0.3%	6	0.4%	4	0.3%	1	0.03%	1	0.1%	0	0.0%	9	0.3%	5	0.3%	4	0.3%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	34	1.1%	19	1.3%	15	1.0%	17	0.6%	10	0.7%	7	0.5%	17	0.6%	9	0.6%	8	0.5%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	9	0.3%	4	0.3%	5	0.3%	4	0.1%	1	0.1%	3	0.2%	5	0.2%	3	0.2%	2	0.1%
境界域知能	7	0.2%	5	0.3%	2	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	0.2%	5	0.3%	2	0.1%
計	135	4.5%	92	6.2%	43	2.9%	78	2.6%	56	3.8%	22	1.5%	57	1.9%	36	2.4%	21	1.4%

表 1－5

H28小学1年生 n=2330 (男=1151,女=1179)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	16	0.7%	10	0.9%	6	0.5%	13	0.6%	7	0.6%	6	0.5%	3	0.1%	3	0.3%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	5	0.2%	5	0.4%	0	0.0%	2	0.1%	2	0.1%	0	0.0%	3	0.1%	3	0.3%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	1	0.04%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.04%	0	0.0%	1	0.1%
境界域知能	2	0.1%	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
計	27	1.2%	19	1.7%	8	0.7%	17	0.7%	11	1.0%	6	0.5%	10	0.4%	8	0.7%	2	0.2%

表 1－6

H28小学4年生 n=2595 (男=1325,女=1270)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	22	0.8%	21	1.6%	1	0.1%	9	0.3%	8	0.6%	1	0.1%	13	0.5%	13	1.0%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	11	0.4%	11	0.8%	0	0.0%	4	0.2%	4	0.3%	0	0.0%	7	0.3%	7	0.5%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	1	0.00%	1	0.1%	0	0.0%	1	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	1	0.04%	0	0.0%	1	0.1%	1	0.04%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%
計	37	1.4%	35	2.6%	2	0.2%	15	0.6%	13	1.0%	2	0.2%	22	0.8%	22	1.7%	0	0.0%

表 1－7

H28小学6年生 n=2703 (男=1360,女=1343)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	17	0.6%	14	1.0%	3	0.2%	8	0.3%	6	0.4%	2	0.1%	9	0.3%	8	0.6%	1	0.1%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	10	0.4%	9	0.7%	1	0.1%	5	0.2%	5	0.4%	0	0.0%	5	0.2%	4	0.3%	1	0.1%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	1	0.04%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.04%	0	0.0%	1	0.1%
境界域知能	2	0.1%	2	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%	2	0.1%	0	0.0%
計	31	1.1%	26	1.9%	5	0.4%	13	0.5%	11	0.8%	2	0.1%	18	0.7%	15	1.1%	3	0.2%

表 1－8

H28中学3年生 n=2980 (男=1478,女=1502)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	6	0.2%	6	0.4%	0	0.0%	6	0.2%	6	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	2	0.1%	2	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%	2	0.1%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	1	0.03%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.03%	1	0.1%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	8	0.3%	4	0.3%	4	0.3%	4	0.1%	1	0.1%	3	0.2%	4	0.1%	3	0.2%	1	0.1%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	17	0.6%	13	0.9%	4	0.3%	10	0.3%	7	0.5%	3	0.2%	7	0.2%	6	0.4%	1	0.1%

表 1－9

H28小学1年生 n=2330 (男=1151,女=1179)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	1	0.04%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0.04%	1	0	0.1%	0	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	1	0.04%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0.1%
境界域知能	1	0.04%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	1	0.04%	0	0.0%
計	3	0.1%	2	2	0.2%	1	1	0.1%	1	0.04%	1	0	0.1%	1	2	0.1%	1	0.1%

表 1－10

H28小学4年生 n=2595 (男=1325,女=1270)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	2	0.1%	2	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0.04%	1	0	0.1%	1	0.04%	0	0.0%	0
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	2	0.1%	2	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0.04%	1	0	0.1%	1	0.04%	0	0.0%	0
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	1	0.04%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0.04%	0	0.0%	0
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	2	0.1%	0	0	0.0%	2	0	0.2%	1	0.04%	0	0	0.0%	1	0.04%	0	0.0%	1
境界域知能	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%
計	7	0.3%	5	5	0.4%	2	2	0.2%	3	0.1%	2	2	0.2%	4	0.2%	3	0.2%	1

表 1－11

H28小学6年生 n=2703 (男=1360,女=1343)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	2	0.1%	1	0.1%	1	0.1%	2	0.1%	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着かない、そそかしい等の問題(ADHD等)	2	0.1%	2	0.1%	0	0.0%	2	0.1%	2	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	5	0.2%	4	0.3%	1	0.1%	4	0.1%	3	0.2%	1	0.1%	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%

表 1－12

H28中学3年生 n=2980 (男=1478,女=1502)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	4	0.1%	4	0.3%	0	0.0%	4	0.1%	4	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着かない、そそかしい等の問題(ADHD等)	1	0.03%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.03%	1	0.1%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	1	0.03%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.03%	1	0.1%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	6	0.2%	6	0.4%	0	0.0%	4	0.1%	4	0.3%	0	0.0%	2	0.1%	2	0.1%	0	0.0%

表 1 -13

H28小学1年生 n=2330 (男=1151,女=1179)

主たる問題	不登校					
	計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神科的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	1	0.04%	1	0.1%	0	0.0%

表 1 -14

H28小学4年生 n=2595 (男=1325,女=1270)

主たる問題	不登校					
	計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	1	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神科的なケアを要する(チック、緘黙等)	2	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	3	0.1%	2	0.2%	1	0.1%

表 1 -15

H28小学6年生 n=2703 (男=1360,女=1343)

主たる問題	不登校					
	計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	2	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	3	0.1%	1	0.1%	2	0.1%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	5	0.2%	2	0.1%	3	0.2%

表 1 -16

H28中学3年生 n=2980 (男=1478,女=1502)

主たる問題	不登校					
	計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	7	0.2%	6	0.4%	1	0.1%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	1	0.03%	0	0.0%	1	0.1%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	8	0.3%	6	0.4%	2	0.1%

表 1-17 教育において配慮や支援が必要な子どもの人数と割合

支援内容		H28小学1年生 n=2304 (男=1131,女=1173)						H28小学4年生 n=2570 (男=1308,女=1262)						H28小学6年生 n=2683 (男=1348,女=1335)						H28中学3年生 n=2948 (男=1455,女=1493)														
		男			女			計			男			女			計			男			女			計			男			女		
		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%				
A. 特別支援 学級に在籍	(1)知的障害特別支援 学級総数	27	1.2	16	1.4	11	0.9	31	1.2	18	1.4	13	1	30	1.1	23	1.7	7	0.5	32	1.1	19	1.3	13	0.9									
	(2)自閉症・情緒障害 特別支援学級総数	14	0.6	11	1	3	0.3	14	0.5	10	0.8	4	0.3	12	0.4	11	0.8	1	0.1	13	0.4	9	0.6	4	0.3									
	(3)その他の特別支援 学級総数	0	0	0	0	0	0	2	0.1	2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
	(1)情緒障害通級指導 教室に通級	1	0.04	1	0.1	0	0	6	0.2	5	0.4	1	0.1	7	0.3	7	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0									
	(2)難聴・言語障害通 級指導教室に通級	22	1	17	1.5	5	0.4	7	0.3	5	0.4	2	0.2	1	0.04	0	0	1	0.1	1	0.03	0	0	1	0.1									
	(3)その他の通級指導 教室に通級	2	0.1	2	0.2	0	0	6	0.2	4	0.3	2	0.2	4	0.1	4	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0									
B. 通常学級 に在籍	(4)適応指導教室((1) ～(3)通級を除く)	0	0	0	0	0	0	1	0.04	0	0	1	0.1	1	0.04	1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0									
	(5)学級担任による配 慮のみ	56	2.4	41	3.6	15	1.3	72	2.8	55	4.2	17	1.3	55	2	39	2.9	16	1.2	47	1.6	36	2.5	11	0.7									
	(6)その他の支援	23	1	14	1.2	9	0.8	8	0.3	8	0.6	0	0	4	0.1	4	0.3	0	0	3	0.1	3	0.2	0	0									

表 1-18 震災後のメンタルヘルスケアの必要な児童生徒数

内容	H28小学1年生 n=2330 (男=1151,女=1179)						H28小学4年生 n=2595 (男=1325,女=1270)						H28小学6年生 n=2703 (男=1360,女=1343)						H28中学3年生 n=2980 (男=1478,女=1502)					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
①震災後のストレスから専門的な心の ケアが必要と感じる児	0	0	0	0	0	0	7	0.3	4	0.3	3	0.2	7	0.3	6	0.4	1	0.1	0	0	0	0	0	0
②このうち、SCの面接を受けたことが ある児	0	0	0	0	0	0	4	0.2	4	0.3	0	0	2	0.1	0	0	2	0.1	0	0	0	0	0	0
③①の児のうち、医療機関を受診したと 把握している児	0	0	0	0	0	0	4	0.2	4	0.3	0	0	2	0.1	0	0	2	0.1	0	0	0	0	0	0

【H28年度南相馬市】

表2-1 H28小学1年生 n=336 (男=161,女=175)

主たる問題	発達の違いや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%	
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	14	4.2%		13	8.1%		1	0.6%		11	3.3%		10	6.2%		1	0.6%	
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	17	5.1%		13	8.1%		4	2.3%		1	0.3%		1	0.6%		0	0.0%	
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	15	4.5%		7	4.3%		8	4.6%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
学力の問題(LD等)	7	2.1%		5	3.1%		2	1.1%		1	0.3%		1	0.6%		0	0.0%	
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	13	3.9%		9	5.6%		4	2.3%		4	1.2%		4	2.5%		0	0.0%	
その他何らかの精神的ケアを要する(チック、緘黙等)	2	0.6%		0	0.0%		2	1.1%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
境界域知能	3	0.9%		1	0.6%		2	1.1%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
計	71	21.1%		48	29.8%		23	13.1%		17	5.1%		16	9.9%		1	0.6%	

表2-2 H28小学4年生 n=339 (男=176,女=163)

主たる問題	発達の違いや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%	
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	13	3.8%		10	5.7%		3	1.8%		6	1.8%		5	2.8%		1	0.6%	
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	18	5.3%		16	9.1%		2	1.2%		5	1.5%		5	2.8%		0	0.0%	
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	3	0.9%		2	1.1%		1	0.6%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
学力の問題(LD等)	5	1.5%		3	1.7%		2	1.2%		1	0.3%		1	0.6%		0	0.0%	
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	10	2.9%		6	3.4%		4	2.5%		4	1.2%		3	1.7%		1	0.6%	
その他何らかの精神的ケアを要する(チック、緘黙等)	4	1.2%		4	2.3%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
境界域知能	1	0.3%		1	0.6%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
計	54	15.9%		42	23.9%		12	7.4%		16	4.7%		14	8.0%		2	1.2%	

表2－3

H28小学6年生 n=394 (男=190,女=204)

主たる問題	発達の違いや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	16	4.1%	11	5.8%	5	2.5%	14	3.6%	11	5.8%	3	1.5%	2	0.5%	0	0.0%	2	1.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	5	1.3%	4	2.1%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.3%	4	2.1%	1	0.5%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	4	1.0%	2	1.1%	2	1.0%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	3	0.8%	1	0.5%	2	1.0%
学力の問題(LD等)	6	1.5%	2	1.1%	4	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	1.5%	2	1.1%	4	2.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	5	1.3%	3	1.6%	2	1.0%	2	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	3	0.8%	2	1.1%	1	0.5%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	1	0.3%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.5%
境界域知能	3	0.8%	3	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.8%	3	1.6%	0	0.0%
計	40	10.2%	25	13.2%	15	7.4%	17	4.3%	13	6.8%	4	2.0%	23	5.8%	12	6.3%	11	5.4%

表2－4

H28中学3年生 n=435 (男=230,女=205)

主たる問題	発達の違いや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	14	3.2%	12	5.2%	2	1.0%	11	2.5%	9	3.9%	2	1.0%	3	0.7%	3	1.3%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	5	1.1%	4	1.7%	1	0.5%	4	0.9%	3	1.3%	1	0.5%	1	0.2%	1	0.4%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	2	0.5%	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%	0	0.0%	2	1.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	6	1.4%	1	0.4%	5	2.4%	5	1.1%	1	0.4%	4	2.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.5%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	2	0.5%	0	0.0%	2	1.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.5%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.5%
境界域知能	4	0.9%	3	1.3%	1	0.5%	2	0.5%	2	0.9%	0	0.0%	2	0.5%	1	0.4%	1	0.5%
計	33	7.6%	20	8.7%	13	6.3%	23	5.3%	15	6.5%	8	3.9%	10	2.3%	5	2.2%	5	2.4%

表2-5

H28小学1年生 n=336 (男=161,女=175)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	2	0.6%	1	0.6%	1	0.6%	2	0.6%	1	0.6%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	5	1.5%	4	2.5%	1	0.6%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.6%	4	1.2%	4	2.5%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神科的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	7	2.1%	5	3.1%	2	1.1%	3	0.9%	1	0.6%	2	1.1%	4	1.2%	4	2.5%	0	0.0%

表2-6

H28小学4年生 n=339 (男=176,女=163)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	4	1.2%	4	2.3%	0	0.0%	2	0.6%	2	1.1%	0	0.0%	2	0.6%	2	1.1%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	5	1.5%	5	2.8%	0	0.0%	3	0.9%	3	1.7%	0	0.0%	2	0.6%	2	1.1%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神科的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	9	2.7%	9	5.1%	0	0.0%	5	1.5%	5	2.8%	0	0.0%	4	1.2%	4	2.3%	0	0.0%

表2-7

H28小学6年生 n=394 (男=190,女=204)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	2	0.5%	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%	2	1.1%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	3	0.8%	3	1.6%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	2	0.5%	2	1.1%	0	0.0%

表2-8

H28中学3年生 n=435 (男=230,女=205)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	3	0.7%	2	0.9%	1	0.5%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.5%	2	0.5%	2	0.9%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	3	0.7%	2	0.9%	1	0.5%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.5%	2	0.5%	2	0.9%	0	0.0%

表2－9

H28小学1年生 n=336 (男=161,女=175)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%

表2－10

H28小学4年生 n=339 (男=176,女=163)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表2-11

H28小学6年生 n=394 (男=190,女=204)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表2-12

H28中学3年生 n=435 (男=230,女=205)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表2 - 13

H28小学1年生 n=336 (男=161,女=175)

主たる問題	不登校					
	計			男		
	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	3	0.9%	1	0.6%	2	1.1%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	3	0.9%	1	0.6%	2	1.1%

表2 - 14

H28小学4年生 n=339 (男=176,女=163)

主たる問題	不登校					
	計			男		
	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%

表2 - 15

H28小学6年生 n=394 (男=190,女=204)

主たる問題	不登校					
	計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	1	0.3%	0	0.0%	1	0.5%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	2	0.5%	1	0.5%	1	0.5%

表2 - 16

H28中学3年生 n=435 (男=230,女=205)

主たる問題	不登校					
	計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	1	0.2%	1	0.4%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	1	0.2%	1	0.4%	0	0.0%

表2-17 教育において配慮や支援が必要な子どもの人数と割合

支援内容	H28小学1年生 n=332 (男=157,女=175)						H28小学4年生 n=335 (男=173,女=162)						H28小学6年生 n=392 (男=189,女=203)						H28中学3年生 n=432 (男=228,女=204)								
	計			男			女			計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
A.特別支援 学級に在籍	(1) 知的障害特別支援 学級総数	11	3.3	6	3.8	5	2.9	9	2.7	6	3.5	3	1.9	4	1.0	2	1.1	2	1	7	1.6	3	1.3	4	2		
	(2) 自閉症・情緒障害 特別支援学級総数	2	0.6	2	1.3	0	0	3	0.9	2	1.2	1	0.6	4	1.0	3	1.6	1	0.5	0	0	0	0	0	0		
	(3) その他の特別支援 学級総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
B.通常学級 に在籍	(1) 情緒障害通級指導 教室に通級	0	0	0	0	0	0	2	0.6	2	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	(2) 難聴・言語障害通 級指導教室に通級	20	6	12	7.6	8	4.6	5	1.5	3	1.7	2	1.2	7	1.8	4	2.1	3	1.5	0	0	0	0	0	0		
	(3) その他の通級指導 教室に通級	1	0.3	1	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	(4) 適応指導教室((1) ～(3)通級児を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3	1	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0		
	(5) 学級担任による配 慮のみ	24	7.2	14	8.9	10	5.7	25	7.5	22	12.7	3	1.9	21	5.4	13	6.9	8	3.9	17	3.9	11	4.8	6	2.9		
	(6) その他の支援	10	3	6	3.8	4	2.3	1	0.3	1	0.6	0	0	1	0.3	1	0.5	0	0	2	0.5	1	0.4	1	0.5		

表2-18 震災後のメンタルヘルスケアの必要な児童生徒数

内 容	H28小学 1 年生 n=336 (男=161,女=175)						H28小学 4 年生 n=339 (男=176,女=163)						H28小学 6 年生 n=394 (男=190,女=204)						H28中学 3 年生 n=435 (男=230,女=205)								
	計			男			女			計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
①震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感じる児	1	0.3	0	0	1	0.6	6	1.8	4	2.3	2	1.2	8	2	5	2.6	3	1.5	1	0.2	0	0	1	0.5			
②このうち、SCの面接を受けたことがある児	1	0.3	0	0	1	0.6	3	0.9	2	1.1	1	0.6	8	2	5	2.6	3	1.5	0	0	0	0	0	0	0		
③①の児のうち、医療機関を受診したと把握している児	0	0	0	0	0	0	1	0.3	1	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

【H29年度南相馬市】

表3－1 H29小学1年生 n=317 (男=156,女=161)

主たる問題	発達の遅れや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%	
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	16	5.0%		15	9.6%		1	0.6%		11	3.5%		10	6.4%		1	0.6%	
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	17	5.4%		12	7.7%		5	3.1%		1	0.3%		1	0.6%		0	0.0%	
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	15	4.7%		6	3.8%		9	5.6%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
学力の問題(LD等)	3	0.9%		2	1.3%		1	0.6%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	4	1.3%		3	1.9%		1	0.6%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
その他何らかの精神的ケアを要する(チック、緘黙等)	1	0.3%		1	0.6%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
境界域知能	4	1.3%		3	1.9%		1	0.6%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
計	60	18.9%		42	26.9%		18	11.2%		12	3.8%		11	7.1%		1	0.6%	

表3－2 H29小学5年生 n=338 (男=179,女=159)

主たる問題	発達の遅れや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%	
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	22	6.5%		19	10.6%		3	1.9%		16	4.7%		14	7.8%		2	1.3%	
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	15	4.4%		15	8.4%		0	0.0%		7	2.1%		7	3.9%		0	0.0%	
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
学力の問題(LD等)	7	2.1%		4	2.2%		3	1.9%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	9	2.7%		5	2.8%		4	2.5%		6	1.8%		2	1.1%		4	2.5%	
その他何らかの精神的ケアを要する(チック、緘黙等)	2	0.6%		1	0.6%		1	0.6%		1	0.3%		1	0.6%		0	0.0%	
境界域知能	2	0.6%		1	0.6%		1	0.6%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
計	57	16.9%		45	25.1%		12	7.5%		30	8.9%		24	13.4%		6	3.8%	

表3－3

H29小学6年生 n=396 (男=212,女=184)

主たる問題	発達の違いや偏りのある子どもの総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	18	4.5%	16	7.5%	2	1.1%	15	3.8%	13	6.1%	2	1.1%	3	0.8%	3	1.4%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	14	3.5%	10	4.7%	4	2.2%	7	1.8%	5	2.4%	2	1.1%	7	1.8%	5	2.4%	2	1.1%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	4	1.0%	4	1.9%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	3	0.8%	3	1.4%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	13	3.3%	5	2.4%	8	4.3%	7	1.8%	2	0.9%	5	2.7%	6	1.5%	3	1.4%	3	1.6%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	8	2.0%	6	2.8%	2	1.1%	3	0.8%	2	0.9%	1	0.5%	5	1.3%	4	1.9%	1	0.5%
境界域知能	11	2.8%	6	2.8%	5	2.7%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	10	2.5%	5	2.4%	5	2.7%
計	69	17.4%	48	22.6%	21	11.4%	34	8.6%	24	11.3%	10	5.4%	35	8.8%	24	11.3%	11	6.0%

表3－4

H29小学1年生 n=317 (男=156,女=161)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	7	2.2%	7	4.5%	0	0.0%	2	0.6%	2	1.3%	0	0.0%	5	1.6%	5	3.2%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	3	0.9%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.9%	3	1.9%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	11	3.5%	11	7.1%	0	0.0%	2	0.6%	2	1.3%	0	0.0%	9	2.8%	9	5.8%	0	0.0%

表3－5

H29小学5年生 n=338 (男=179,女=159)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	2	0.6%	2	1	1.1%	0	0	0.0%	1	0.3%	1	0.6%	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	5	1.5%	5	5	2.8%	0	0	0.0%	3	0.9%	3	1.7%	0	0.0%	2	1.1%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的ケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	7	2.1%	7	7	3.9%	0	0	0.0%	4	1.2%	4	2.2%	0	0.0%	3	1.7%	0	0.0%

表3－6

H29小学6年生 n=396 (男=212,女=184)

主たる問題	反抗挑戦性障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計			男			女			計			男			女		
	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数	人数	%	人数
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	1	0.3%	1	1	0.5%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	1	0.3%	1	1	0.5%	0	0	0.0%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的ケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	2	0.5%	2	2	0.9%	0	0	0.0%	1	0.3%	1	0.5%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%

表3－7

H29小学1年生 n=317 (男=156,女=161)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表3－8

H29小学5年生 n=338 (男=179,女=159)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着がない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的なケアを要する(チック、緘黙等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表3-9

H29小学6年生 n=396 (男=212,女=184)

主たる問題	素行障害の特性のある子ども 総数						医療機関受診あり						医療機関受診なし					
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
対人関係やこだわりなどの問題(自閉症等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
落ち着かない、そそかしい等の問題(ADHD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
言葉を理解すること話すことの問題(構音障害等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学力の問題(LD等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
発達全体の遅れ(精神遅滞等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他何らかの精神的ケアを要する(チック、緘黙等)	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%
境界域知能	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.5%	0	0.0%

表3-13 教育において配慮や支援が必要な子どもの人数と割合

支援内容		H29小学1年生 n=317 (男=156,女=161)						H29小学5年生 n=334 (男=176,女=158)						H29小学6年生 n=393 (男=211,女=182)								
		計			男			女			計			男			女					
		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%		人数	%				
A. 特別支援 学級に在籍	(1)知的障害特別支援学級総数	9	2.8		8	5.1	1	0.6		9	2.7	6	3.4	3	1.9		10	2.5	5	2.4	5	2.7
	(2)自閉症・情緒障害特別支援学級総数	0	0		0	0	0	0		3	0.9	2	1.1	1	0.6		5	1.3	4	1.9	1	0.5
	(3)その他の特別支援学級総数	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
B. 通常学級 に在籍	(1)情緒障害通級指導教室に通級	3	0.9		3	1.9	0	0		2	0.6	2	1.1	0	0		1	0.3	1	0.5	0	0
	(2)難聴・言語障害通級指導教室に通級	14	4.4		9	5.8	5	3.1		4	1.2	3	1.7	1	0.6		4	1	3	1.4	1	0.5
	(3)その他の通級指導教室に通級	1	0.3		1	0.6	0	0		0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	(4)適応指導教室((1)～(3)通級児を除く)	1	0.3		0	0	1	0.6		0	0	0	0	0	0		2	0.5	2	0.9	0	0
	(5)学級担任による配慮のみ	29	9.1		19	12.2	10	6.2		25	7.5	21	11.9	4	2.5		26	6.6	20	9.5	6	3.3
	(6)その他の支援	3	0.9		3	1.9	0	0		1	0.3	1	0.6	0	0		1	0.3	1	0.5	0	0

表3-14 震災後のメンタルヘルスケアの必要な児童生徒数

内容	H29小学1年生 n=317 (男=156,女=161)				H29小学5年生 n=338 (男=179,女=159)				H29小学6年生 n=396 (男=212,女=184)									
	計		男		女		計		男		女		計		男		女	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
①震災後のストレスから専門的な心のケアが必要と感ずる児	11	3.5	9	5.8	2	1.2	9	2.7	5	2.8	4	2.5	2	0.5	1	0.5	1	0.5
②このうち、SCの面接を受けたことがある児	6	1.9	4	2.6	2	1.2	5	1.5	3	1.7	2	1.3	2	0.5	1	0.5	1	0.5
③①の児のうち、医療機関を受診したと把握している児	1	0.3	1	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0